

「あふれるほどに注がれる神の恵み」 I コリント 15 : 1 ~ 10

I 導入部

おはようございます。10月の第四日曜日を迎えました。今日も愛する皆さんと共に、私たちの救い主であるイエス・キリスト様を賛美し、礼拝できますことを感謝致します。

最近、どの店に行ってもハロウィンの宣伝があります。10月14日の、礼拝では、塚本先生が、「ハロウィンの夜に思い出してほしいこと」という題でメッセージ下さいました。

「10月31日がハロウィンで、11月1日が聖人の日、その前日で、"All Hallow's Even"の"Even"は古い英語で、「夕方」という意味です。"Evening"や、クリスマスに使うイヴもそれが由来です。つまり、ハロウィンとは、「諸聖人の日の前夜」という意味です。そう考えると、ハロウィンというのは、実は、聖なる日であるはずなのです。」と語って下さいました。

10月31日は、週報にもありますように、宗教改革記念日です。去年は宗教改革から500年の記念の年でした。今年が501年目になります。

カトリック教会の腐敗した信仰、札を買えば、煉獄を通過して天国に行けると、信仰をお金で解決しようとしたカトリック教会に対して、マルチン・ルターは、「聖書のみ、信仰のみ、恩寵（恵み）のみ、」を掲げて、カトリック教会の腐敗した信仰をプロテクトしたのです。そこから、プロテスタント教会が誕生しました。

私たちは、人間の業、行為が信仰の対象になるのではなく、「聖書のみ、信仰のみ、恩寵（恵み）のみ」と示された信仰を大切にしたいと思うのです。

今日は、コリントの信徒への手紙15章1節から10節を通して、パウロという人物から「あふれるほどに注がれた神の恵み」という題でお話しします。

II 本論部

一、もうひとたび福音を

パウロという人物が、今日の箇所のコリントの信徒への手紙を書きました。第二伝道旅行の時、パウロの宣教によって、コリントの人々は、イエス・キリストを救い主と信じたのです。けれども、コリントの教会には、様々な問題があり、信仰的にも問題が起きました。それは、福音に対するものでした。福音とは、良き知らせです。子どもが大学に合格することは、良き知らせです。就職が決まったということも良き知らせです。子どもが婚約します。結婚しましたということも良き知らせです。愛する人の手術が無事成功しましたということも良き知らせです。聖書が言う良き知らせ、福音は、神であるイエス・キリスト様が人間の姿で、人間の世界に来られ、私たちの罪の身代わりに十字架で裁かれ、私た

ちの罪のゆえに、尊い血を流し、身代わりに死んで下さった。命をささげて下さったことにより、私たちの持つ罪が赦され、魂が救われ、キリストが死んで、墓に葬られ、三日目によみがえられたことにより、私たちの永遠の命、死んでも生きる命、天国の望みを与えられたことです。コリントの人々は、この福音、良き知らせをパウロから聞いて、信じて、救われたのです。しかし、彼らは、この福音に対して純粋に受け入れられなくなっていた人々がいたのです。

ですから、パウロは、コリントの教会の人々に、もう一度福音を伝えるのです。15章の1節で、「兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。」 詳訳聖書には、「さて、兄弟たちよ、私があるあなたがたに宣教した福音、あなたがたが歓迎し（受け入れ）、その上にあなたがたの（信仰）が築かれている福音（喜ばしい救いに知らせ）を（あなたがたはすっかり忘れていたらしいので）私はあなたがたに（それを）思い起こさせたいのです。」とあります。 リビングバイブルには、「良い知らせは、ほんとうは何なのか、思い出してほしいのです。」とあります。

コリントの教会の人々が、最初純粋に福音を信じたのですが、それを忘れてしまった。信仰からそれて行った人々に、福音を、良い知らせを、もう一度知らせるといいます。

言いつけや規則を守らなかった子どもたちを諭すようにパウロは語るのです。そして、最も大切なことについて、パウロが伝えた内容は、わたしも受けたものとして語るのです。

3節と4節を共に読みましょう。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、」これが、福音、良き知らせの内容です。聖書に示された通りに、私たちの罪の身代わりに十字架について死んだこと、死んで墓に葬られたこと、しかし、聖書に示された通りに、死んで三日目によみがえられたことが福音です。良き知らせなのです。

この福音は、今日、ここに集っている全ての人に提供されているものです。例外はなく、全ての人に、神が与えておられるものなのです。そのことを覚えたいと思います。

二、最も価値のない者に注がれた恵み

この福音によって、多くの人々がクリスチャンになりました。先週、洗礼を受けたウィ、ケイラちゃんも小学校4年生ですが、この良き知らせ、福音を信じて救われたのです。

5節から7節までは、復活されたイエス様は、ケパ（ペトロ）や12人や500人以上の人に現れ、復活されたことが事実であることを証明されたのです。また、イエス様の弟のヤコブや使徒たち、イエス様の弟子たちに現れたことを記しています。

そして、この福音、良き知らせは、このコリントの信徒への手紙を書いた筆者、パウロにも及んだことを書くのです。

8節です。「そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。」彼は、自分自身を「月足らずで生まれた」と言いました。詳訳聖書には、「死産で生まれた」「活気ある人間の間では未成熟の胎児のようにつまらない者である。」と説明しています。リビ

ングバイブルには、「未熟児みたいな私」と記してあります。「月足らずで生まれた」という表現は、当時の言い方では、「できそこないの人間・人間失格」というような意味があったようです。現代の未熟児の意味とは違います。「できそこないの人間・人間失格」という、月足らずと自分を表現したパウロはその理由を9節で説明しています。9節を共に読みましょう。「わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。」パウロは、かつて教会を迫害した人物、クリスチャンを迫害した人物でした。

彼は、聖書を深く学び、律法という教えを厳格に守るファリサイ派の人でした。当時、イエス・キリスト様とファリサイ派の人々は常に対立していました。パウロは、十字架で死んだような者を信じるクリスチャン、キリスト教会を憎み、クリスチャンを捕まえることに誰よりも熱心に働いた人物でした。狂ったようにクリスチャンを捕らえることが神に喜ばれることだと信じて、キリスト教会を、クリスチャンを迫害したのです。

けれども、今はクリスチャンとなり、福音、良き知らせを伝える者にはなったものの、かつてのキリスト教会の迫害者、クリスチャンの迫害者ということがパウロの最大の汚点となっていたのです。これは彼の経歴の傷、心の傷、良心の傷・後悔・自己嫌悪・コンプレックスとなりました。パウロにとっては、迫害したということによって深い傷を持ち、この経験は忘れたくない経験であり、永遠に隠しておきたい経験であり、墓場まで持って行きたい事柄だったのです。

私達も、自分自身を見つめる時、自分の人生の中で、心の傷となっている事柄があるかも知れません。あのことがなかったらという後悔の念があるかも知れません。誰にも知られず、永遠に隠しておきたい。墓場まで持って行きたいという傷があるかも知れません。

パウロは、使徒たちの中で、一番小さい者であると自覚し、使徒、キリストの証人としての資格さえないと感じていたのです。しかし、そのような彼は、神の恵みによって変えられたのです。そして、私達も神の恵みによって変えられ、祝福されるのです。

三、今私たちがいるのは、神様の恵みです

キリスト教会を迫害し、クリスチャンを迫害した、という消すことのできない人生の最大の汚点を持つパウロ、神様に見捨てられても当然の者であるけれども、見捨てられることなく、復活されたイエス様は、パウロに現れ、出会って下さり、福音によって救われ、神を信じる者とされ、神様のために働く者、神様の恵みを、福音を、良き知らせを伝える者にされたのです。それは、本当にアメージングなことでした。

10節を共に読みましょう。「神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。」パウロは神様に用いられて多くの人々に福音を伝え、彼の宣教により多くの人々がイエス様を信じてクリスチャンになり、教会ができ、目覚ましい働きをすることができたのです。とはいえ、彼は最初から神様に豊かに用いられたわけではありませんでした。

迫害者パウロのレッテルが貼られ、イエス様の弟子たちやクリスチャンたちも、なかな

かパウロを受け入れることができませんでした。「クリスチャンになったと言うけれども、クリスチャンを捕まえるために嘘を言っているのかも知れない。あの迫害者が簡単にイエス様の十字架と復活を信じて救われるはずがない。あり得ない。」と恐れしました。それは、当然の反応だったでしょう。パウロのクリスチャンに対する迫害は尋常なものではなかったからです。

しかし、イエス様の弟子たちやクリスチャンに信頼のあるバルナバ（慰めの子）という人物が、パウロを受け入れ、パウロが心から悔い改めてイエス様を信じてクリスチャンになったこと、神がパウロを異邦人伝道のために選ばれていることなど、パウロに対する偏見を持つ人々との間に立って、とりなしをしたので、イエス様の弟子たちや指導者、クリスチャンはパウロを受け入れるようになったのです。パウロを信用したのです。

クリスチャンの迫害者からクリスチャンになり、キリストを伝えるようになったパウロは、以前の仲間ファリサイ派の人々や律法学者から命をねらわれるようになりました。しかし、パウロの宣教、パウロの働きは、キリスト教の世界を変え、歴史を変える働きとなったのです。彼自身が、「わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。」と言いました。神の恵みによって救われたパウロ、その恵みは無駄にならず多くの実を結んだのです。パウロはイエス様の12弟子以上に多くの働きをしました。多くの人々に福音を伝え、パウロの働きで多くの人々が救われ、教会が生まれたのです。でも、その働きはパウロ自身の働きではなく、神の恵み以外には考えられないとパウロ自身が語るのです。神の恵みによって今日のパウロがあるのです。

パウロは、イエス・キリスト様の恵みをいただかなければ、罪の赦しが与えられず、イエス様を救い主を信じることはなかったでしょう。そして、イエス様を伝えることもなかった。多くのクリスチャンを痛めつけ、苦しめた自分が、神様のために働けること、福音を伝えることが許されたことをパウロは何よりも喜び、感謝したのです。だからこそ、キリストのために、多くの苦しみを受け、命を懸けることができたのです。

私たちも、自分自身を見つめる時、弱さがあります。罪があります。隠しておきたいこともあるでしょう。しかし、イエス様は、私たちを愛し、私たちの全てを受け入れ、命をかけて私たちを愛して下さり、パウロ言うように、神の恵みによって今日の私たちがあるのです。どのような罪があろうとも、どのような失敗があろうとも、どのような後ろめたい事があっても大丈夫です。安心して下さい。あなたの罪も失敗も問題も、全てイエス様の身代わりの十字架の死で解決されているのです。そして、あなたもパウロと同じように、イエス様に豊かに用いる者とされるのです。そのことを覚え感謝したいと思うのです。

Ⅲ 結論部

昨日から野球の日本シリーズが始まりました。日本シリーズが始まると思い出すことがあります。私は神戸の神学校に入学して、1年生の時、4年生の先輩にある所に連れて行かれました。喫茶店でした。私は、「喫茶店に入ってもいいんですか」と問いました。先輩は笑いながら、席に案内しました。すべてを捨て献身した者が、喫茶店に入るなど悪

い事だと、新入生の私は純粋でした。その時日本シリーズがテレビで映っていたのです。当時は昼間にありました。このことから、私は喫茶店に良く行くようになり、出かける時は必ず黒板に、どこに行くのかを書いて出かけるのですが、クリーニングとか買い物とかを書いて、喫茶店に行き、日本シリーズを見続けました。日本シリーズが終わっても行き続けました。神学生の中でも、あまり真面目な方ではなく、不真面目で、この世的で、神様のお心を痛めるような事をしてきたように思います。

ナザレンの神学校でも、真面目を装いながら、樂をし、一生けん命に学び、奉仕をしましたが、人間的な部分も多くあったように思います。そのようなふざけた者が、神学校を卒業し、下北沢教会という大きな教会の牧師となり、素晴らしい伴侶が与えられ、奈良県での開拓伝道をするように導かれました。奈良での生活がなければ、今日、婚約式をする娘は、藤井君との導きもなかったのだと思うのです。13年の奈良での開拓伝道の後、この青葉台教会への導きに驚きでした。こんな愚かな者が、あの大江先生、持田先生、森本先生というりっぱな先生方の牧会、伝道されていた教会に行くようにと教団からの導きに恐れをなしました。上品な青葉台の教会に、私のような下品で、関西弁を話すような者、それ以上に人間的で、この世的な者が大丈夫だろうかと思い、悩み、祈りました。

神様の導きを求め、イエス様の導きに従って青葉台の地、関東の地に導かれてまいりました。また、このことがなければ、娘と藤井君は出会わなかったでしょう。そして、奈良出身ということがなければ、今日の婚約式はなかったのだと思うのです。

私たちは、それぞれの人生を思い返す時、私たち自身の努力や働き、頑張り以上に、大きな神様の恵みがあつたことを思うのです。私たちを愛し、命までも捨てて愛して下さった神様の恵みが注がれていたし、今も注がれ続けているのです。そして、今日の私たちがあるのです。この週も神様の恵みが一人ひとりに注がれています。何があっても大丈夫です。安心してイエス様と共に、イエス様の恵みに支えられて歩んでまいりましょう。